

# 家庭



## 訓練の統一

教育上、訓練の統一といふ事は、非常に大切な條件となつて居る、即ち若し訓練に統一を缺いて居ては、教育は、全く其効力を失ふといふのである、訓練の統一といふと大層、言葉が六ヶ敷い様であるが、通俗に解釋して見ると、つまり、子供を養ふに、皆が同一の主義、同一の方針をやつて行くといふ事に過ぎないのであるが今此事を少し分解して考へて見たいと思ふ。

一、家庭に於ける訓練の統一、先づ一家族たるものが、残らず同じ精神で、子供を教育して行くといふのは、家庭教育上最も必要な事であつて、然も中々實行の困難なものである、一體子供に對しては、家族の全員が、總べて教育的勢力となるもので（勿論其勢力には大小の程度があるにして）子供の父なり母なり、祖父なり祖母なり、殊に乳母があれば其乳母より、其他下女下男に至るまで、悉皆子供を感化訓練する力となるものである、若し之等の家族が残らず善良な同一主義の下に統一せられて、其言ふ事や、其行ふ事や、はた其考へる事などが、すべて純良高尚で其間決して互に相背馳する事がない時には、之を稱して立派な家風の立つた家庭と稱するのである。

此様な家風のある家庭に在つては、子供はどち

ら向いた所が、皆純良高尚な事許りで、朝夕一點野卑な分子を経験することがないのであるから此の如き所で育つ子供は、いかに其品性の善良ならざらんことを欲するも得んやといふ風になるのである、此の如きを稱して、訓練の統一を得たる家庭と稱することが出来る。

所が、さて實際に當ると、中々さう甘くは問屋がふるしてくれない、なる程、事實其家庭には、チャンと立派な家風が立つて居るにしても、さて教育する上について、各自考が違つてくる、餘程注意をして子供の教育に力を盡して居る人々の中でも、時々教育上の意見が衝突する事があつてとかく統一がつかぬ、折合が取れぬ、つまり同じ精神でやる事が出来ぬ場合が甚だ多い、況んや家風も何もない家庭に於てはである。今其場合

を一々記して見よう。

第一、夫婦に子供。これは一番簡單な家庭で、所謂二人水入らずの中だから、萬事にかけて至極都合よく行き易く、(他の條件は取り除いて)訓練上これ程仕易い場合がない、こゝで、訓練の不統一を來す所は假令は父親の方から言つて見ると、子供の前に遠慮なしに母親を罵つたり叱つたりすることがあり、母親の側からいつて見ると、兎角子供を愛し過ぎて 子供の過誤失策といふと、何かと父親に隠し立をする。この二の事實は、着々として訓練不統一の結果を顯はすもので、其最も見易い一つは、子供に對して、母親の勢力が、全く地に落ちて仕舞ふことである、いたづらつ子が、よく母親を侮つて、其言ふことを聞かなくなる其源因は、全くこゝに在る、母親の感化が、全く無

勢力となつては、家庭教育は、殆んど其價値を失ふ、而してこれは實に最初の訓練に統一を缺いた所から多く源因するのである。

第二、女中を雇入れてから、借てこうなると又中々油断ができぬ、とに角、二人水入らずの中へ他人が一人這入つて來たのであるから、そう今迄の様に簡單に行かぬ、一體が他人のことであるから自分たちが子供を思ふ程の誠實といふものは到底、他人たる女中や奉公人に向つては望むことができない、まして、教育上保育上の主義や何かはとても解し兼ねる者である以上は、折角、自分たち二人が甘く相談して、こんな事、あんな事は、決して子供に見せまい聞かせまいぞと定めた事も女中は何の氣なしに見せつけ聞かせつける、之を防ぐのは中々容易でない。而して彼等の子供に向

つての感化力は決して少くない。此事に付きては本誌に前號で聊か論じたから、茲では詳述しないが、兎に角、こうなると、訓練の統一は頗る困難になるのである。

第三、祖父母のある場合。これが又大抵一番に困難を感じる處で、然かも一番普通に見る所の家庭である、即ち子供にとつてのお祖父さんお祖母さんで、母親に取つての舅 姑のある家庭である、孫は子よりも尙可愛い、といふ所から、どこまでもお祖父さんやお祖母さんは精一杯に可愛がる。折角お父つあんやお母さんが、教育の上で考へた事も何も只だ可愛い一方から、老人たちは少しも考へてくれない。お父つあんやお母さんの方では「どうもそうくお祖父さんやお祖母さんの様に甘やかしてやつては、困るじゃありませんか、

だからむらんなさい、此子はいゝ氣になつて一つも私どもと言ふ事なぞ聞きやしません」と訴へる、老人の方は又やつきとなつて『さう〜お前たちの様に、八笠しく許り言つて居ては、孫が可愛相じや、チト子供にもなつて見るがよい』といふ様な具合で、兎角子供教育の上に、新舊思想の衝突が始まる、現に自分の友人などこれで頗る閉口して、どこかに赴任する時に、赤ん坊丈は妻君に托して老人と一所に置いて、自分一人で五才許りになる女の子を連れて行つた事なぞがある。これは、どこの家庭でも随分困難を感じる所で、どうか、老人育ちにしたくない〜とは、よく聞く所である。これには、全くの所困る、いや困ると許り言ては居られぬが、今日の場合どうも致し方がない、然しながら、だん〜と新聞や雑誌に

いろ〜教育の事なぞが出て来て、老人たちも新しい議論に接することが多いから、自然そう々々頑固な事許り言はないで、兎角教育上の事は、今の學問をした者に任せるがよいといふ様にはなつて来たけれども一般の場合は、まだ左様は行かぬ様である。此他に、書生だの、下男だの、又親類すぢの人などが大勢居ると、どうしても夫れ丈け教育の統一の上に餘計な注意が入るのである(未完)

(撃 水)

### 過ぎたる躰け方

和田 藏子

商なひの法を知らないで、商賣する者がありましたら、いつも、失錯をいたします、また、人の身体骨格の理を知らないで、醫者となる者があり